

## 球状片麻岩：飛騨変成岩中の例（地学散歩(25)）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤吉, 瞭 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025557">https://doi.org/10.14945/00025557</a>

# 球状片麻岩

## — 飛驒変成岩中の例 —

藤 吉 瞭\*

富山県片貝川上流の東又谷、早月川上流の鍋増谷は、中部日本の日本海側に分布する飛驒変成帯の東北部に位置している。そこでは、図1に示すように伊折花崗岩に密接に伴うカリ交代作用で形成された眼球片麻岩帯中に球状片麻岩が産出する。東又谷では×印に球状片麻岩の露頭が、その上流に基質の細粒・中粒の球状片麻岩（写真4、5、6）の転石が見出される。鍋増谷では球状片麻岩は露頭として見出されず、×印の下流に点々と転石として豊富に産出する。

東又谷の球状片麻岩の球状部は一般に殻が未発達で、特に細粒片麻岩中のものは球状部の発達の萌芽状態を示すようである（写真4、5）。鍋増谷のものでは、球状部は優白質・優黒質の殻から成るリング状であり、基質の片麻岩も粗粒である（写真1、3）。鍋増谷の球状片麻岩のもう一つの特徴は球状部に顕著な“Pressure shadow”をもつもの及び紡錘状の形のものが多いことである。これは球状部形成時および後に変形運動を受けたことを示している。

球状岩は日本の多くの地域から報告されているが、その多くは花崗岩類に伴い、火成起源を示唆するものが多い。それに対して当地域の球状岩は、明確な変成岩である片麻岩中に球状部が発達していることで、今まで日本で報告されたものと異なっており、又世界的にも非常にまれである。近代岩石学の創始者の一人Eskolaは球状岩の変成起源を論述した。当地域の球状片麻岩は特に細粒の片麻岩中に球状部が発達していることに於て、この球状岩の変成起源の非常によい証拠を提供している。

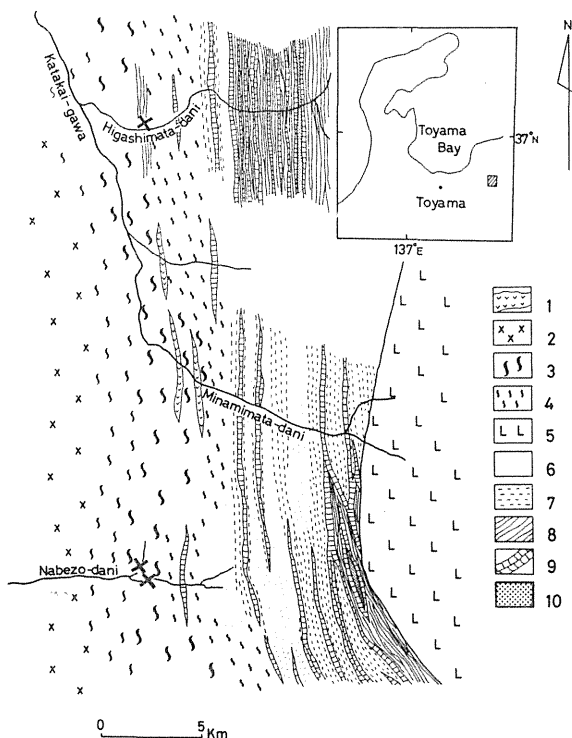


図1 東又谷・鍋増谷の地質図および球状片麻岩の産出地点（×印）

凡 例

- 1 : アプライト
- 2 : 伊折花崗岩
- 3 : 眼球片麻岩
- 4 : カリ長石斑状変晶圧砕片麻岩
- 5 : 毛勝岳花崗岩
- 6 : レプタイトおよびレプタイト片麻岩
- 7 : 石英長石質、泥質および塩基性片麻岩  
又は片岩の互層
- 8 : 角閃岩
- 9 : 大理石
- 10 : 泥質片麻岩

\* 静岡大学教育学部



写真1 リング状の球状部の発達した粗粒片麻岩（鍋増谷）

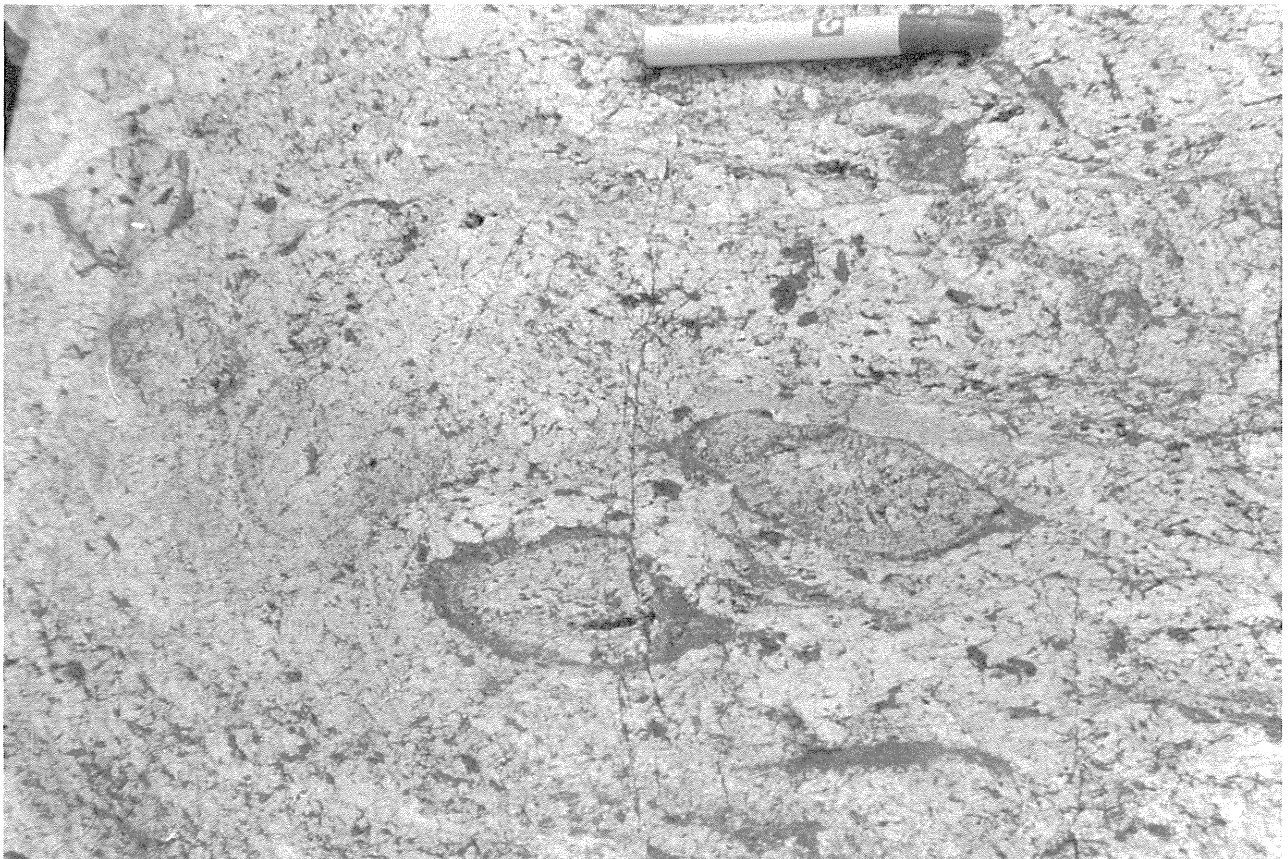


写真2 紡錘形の球状部の発達した粗粒片麻岩（鍋増谷）



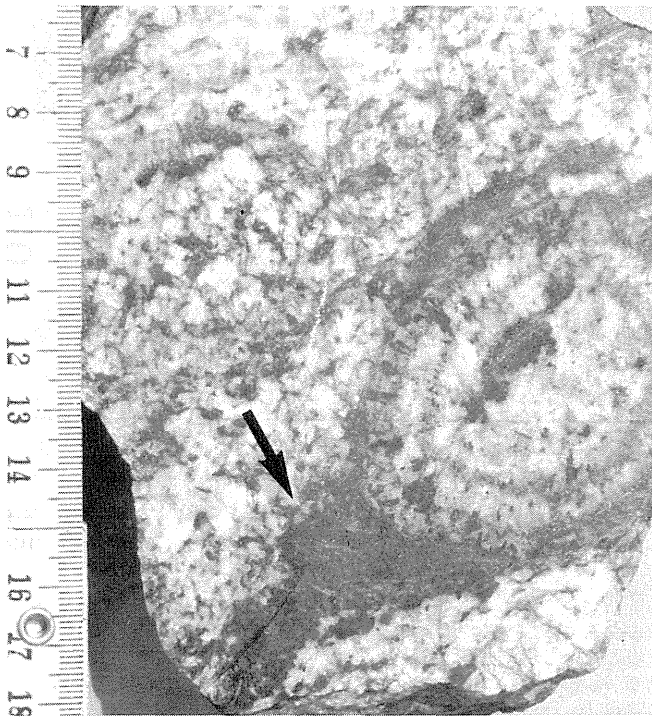


写真3 粗粒片麻岩中のリング状球状部と  
Pressure shadow (矢印)  
(鍋増谷)

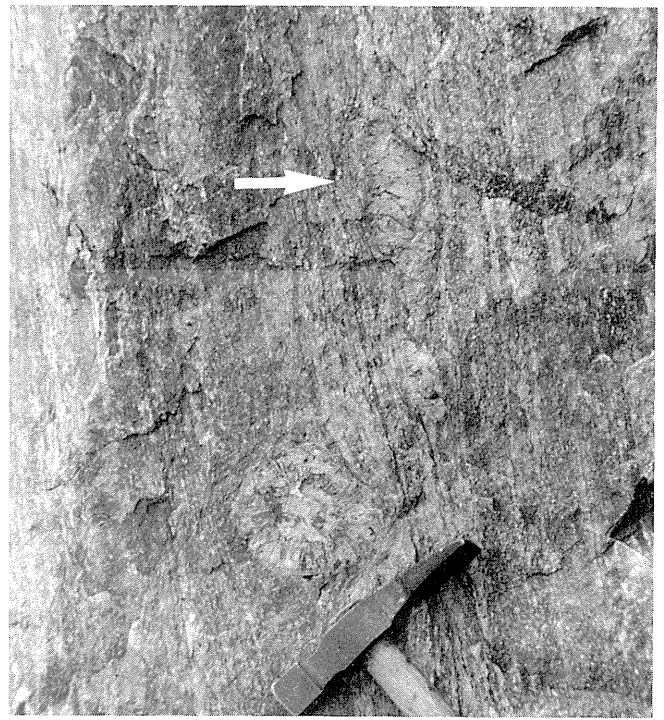


写真4 球状部の発達した細粒黒雲母片麻岩  
(東又谷)  
写真では発達したリング状のものが  
存在するが、これは、この岩石では  
例外的で、一般には殻の未発達な萌  
芽的なものが多い(矢印)。

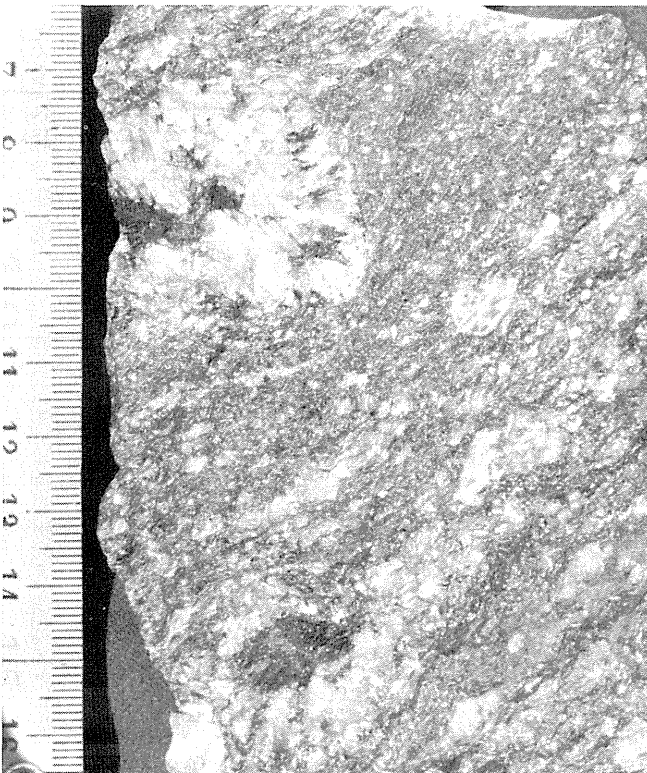


写真5 萌芽的球状部の発達した細粒黒雲母  
片麻岩  
(東又谷)



写真6 球状部の発達した中粒の泥質、塩基  
性、砂質の互層片麻岩  
(東又谷)